

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 日本国語教育学会

(代表者 桑原 隆 会員数 約2,900人)

TEL 03-6801-5951

1 前 文

現代文は本試験と比べるとバランスが良いため、かえって本試験のよくないところが目立ってしまった。本試験と追試験の設計構造が違うのは要改善。古文は文章の内容や難易度の面で「国語総合」の範囲を超えているのではないか。漢文は日本人が書いた文章を出題しており、題材も工夫されていて評価できる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式

第1問 分量的にも問題はなく、新しい授業の在り方への方向づけなど、工夫のある問題になっていた。ただし、一部に「国語総合」の問題として適切かどうか疑問が残るものもあった。

問1・問2 妥当，良問。

問3 妥当な問いではあるが、「非対称性」について確認する問いがあっても良かった。

問4 本試験でも注目していた「引用に着目すること」がここにも出ていて，良い。

問5 キーワードの説明の違いから本文の論理展開を問うもので，センター試験の問い方に近い。本試験にはこのような傾向の問題が少なかった。

問6 文章を書く上での工夫という観点で問題が作られるのは面白い。ただし，現段階の「国語総合」の問題として適切かどうか，疑問。Kさんのまとめが堅苦しいまとめかたになっており，生徒の実態とは離れている。また，本文を踏まえての書き方なのか，一般的な書き方を考えるかで，ちぐはぐになってしまう印象がある。特に(ii)は，どんな評論でも同じような答え（本文を読まずとも解ける答え）になってしまっているのではないか。その意味で，Kさんのまとめに即して答えを考えようとするとかえって悩む，難易度の高い問題になっていた。

第2問 心情説明だけではない問いもあり，本文・資料の分量などを含め，本試験と比べてバランスが良い。

問1 古典の言葉も意識できて良い。本試験にはないということが気になる。本試験にないと，言語知識の軽視につながるのではないか。

問2 妥当。「僕」の性格の整理に役立つ。

問3 表現上の特徴も含んだ心情問題。本試験にも欲しい。ただし，四つしか選択肢がないのにもかかわらず，②と③の文末のまとめ方が似てしまっていて残念。

問4 傍線部BとCが近いのが気になるが，表現と心情と，見るべきものが異なるので妥当か。

問5 「手紙であることを踏まえる」と，深読みしたくなってしまう。正答がぶれるわけではないが，誤答③・④のような読みも授業では出て欲しいと感じる。

問6 妥当。

問7 本試験よりも妥当。資料Ⅱがあるのは面白いが，資料Ⅰだけで解けるのではないか。資料をコンパクトにしても良かった。

第3問 敬語表現や，注の中に和歌があるなどの点はやや難しく，また，男女のやりとりといっ

た内容面から、「国語総合」というよりは「古典B」の範囲ではないか。現行の教科書教材で言えば、『源氏物語』を多く読んでいる受験者には有利に働いたと思われる。

問1 妥当。

問2 文法が品詞レベルではなく、「接頭語」や「程度を表す副助詞」などが出題されており、細かすぎる。③の複合動詞「見なし聞こゆ」で間違いを見抜くのは受験者にとっては難しい。③の誤答であれば「聞こゆ」を敬語の種類などで示す方（たとえば、『聞こゆ』は尊敬語の補助動詞で～）が難易度としては適切と考える。

問3 妥当。

問4 妥当。4択で受験者の負担を減らしているのはよい。

問5 解法テクニックとして【ノート】を先に読んで、【学習プリント】を後で読む、といった受験者が増えてしまうのではないか。【学習プリント】の〔ステップ1〕は、内容から言えば実際の授業で扱うのは抵抗があり、困難である。この問題が高等学校の授業を想定したものならば、こういった内容の出題は相応しくない。

第4問 難易度も文章量も適切である。工夫があつて興味深い出題である。

問1 Xは難しい。これらの選択肢の中から「廉」を入れる本文中の明確な根拠が見当たらない。受験者は自信を持って選べないのではないか。Yは妥当。

問2 妥当。

問3 返読文字の扱いについて、実際の高校現場ではそこまで詳しく学習していないのではないか。教科書には出てくるが、訓点があれば自然に返読できるので、返読文字自体についての知識が必須となるような出題は、「国語総合」としては難しい。

問4・問5 妥当。

問6 問い自体は適切であるが、資料を読みやすくして解きやすくしてほしかった。資料の送り仮名、読点は省く必要はあったのか。選択肢は四つの方が良かったのではないか。

3 総評・まとめ

前文参照。なお、問題冊子全体で50ページ超というのは、本試験と同様、分量がかなり多い。

4 今後の共通テストへの要望

現代文分野では、本試験と追試験のバランスがとれていない。問いのバリエーションや資料の見やすさなど、追試験の方が良かった。本試験、追試験とも理念と現実の乖離を感じるので、実際の授業に反映できるような試験を望む。古文は、「古典B」履修者が有利になるような中古・中世の作り物語がまだ出題されていることに懸念を覚える。また、追試験のみならず本試験でも、そして古文でも漢文でも、「国語総合」の範囲であるならば、空所補充（脱落箇所）の復元）や漢文の一部を白文にした出題は望ましくない。本来教科書に出ている形で読むのが教室での学習形態であり、そこから外れない出題にしてほしい。